

京都府京都市東山区における 祝言のあいさつ

佐藤虎男

○はじめに

1. 対象地の地理的環境：同じ京都市内でも、ことばは、室町・祇園・北区・西京区あるいは南の伏見などで、多少ずつ違うと言われる。ここに取り上げる地点は東山区で、知恩院・円山公園・祇園・清水寺・三十三間堂などのある区である。ただし話者3人のうち、谷山氏は左京区在住である。武内氏は、祇園の近く、大和大路は建仁寺の隣で生育された方、黒田氏は清水寺に近い所に生育されたお方である。後二者を代表に立てて「東山区における」とした。谷山氏の左京区は東山区の北隣の区であるから、厳密には京都市東部ということになる。

ここに、武内氏のお宅の大和大路四条下ル通りの町並みを描いてみよう。瀟洒な京料理のお店（じつは武内氏はその一つ「きんなべ」さんのお母さん）、通りに面して折り畳み式の木製の腰掛けのついた古い格子戸の家、家具屋、履物屋、酒屋、和楽器店、化粧品店、医院、菓子屋、漬物屋、薬屋、瀬戸物屋、花屋、古本屋、洋品店、お寺などが、さして広くない通りの両側に並んでいる。ここはここだけで、一つの生活圏をなしているとも思われるような一角である。

2. 調査年月日：1990年11月17日および26日
3. 方言話者：武内夏子氏 大正10年7月生まれ（69歳）
谷山 富（とみ）氏 大正10年1月生まれ（69歳）
黒田美都夫氏 大正6年12月生まれ（73歳）

京都弁らしさをよく出される人と、その比較的控え目な人とのとりまぜが、ちょうど今日の状況をよく反映しているのを、見られるであろう。

4. 調査者、調査場所：調査者は佐藤虎男、場所は武内氏宅と黒田氏宅。
5. 調査方法：質問法によった。

※ 以下、対話のやりとりを一对として扱い、これを↓↑で示す。

I. 結納授受のあいさつ

1. 仲人（↓）と新婦の父親（↑）との交わすあいさつ

- ↓○ホンジツワ オヒガラモ ヨロシユ ゴザイマス。ホンジツワ ナニナケア シシャトシテ マイリマシタ。イクヒサシク オーサメ イタダキマスヨ ニ。ドーゾ ヨロシユ。本日はお日柄もよろしゅうございます。本日は何々家の使者として参りました。幾久しくお納めくださいますように。どうぞよろしく。(上品、かしこまり)
 <こう言って目録を差し出す。>
 <オヒガラモヨロシクとイクヒサシクを言うのが常識。>
- ↑○コノタビワ ゴクローサンデ ゴザイマシタ。ケッコウナ オイワイ オ アリガト ゴザイマス。この度はご苦労さまでございました。結構なお祝いをありがとうございます。(上、かしこまり)
 <どちらも、サル(去るに通じる)などの忌みことばは使わないように注意する。>

2. その時の新婦のあいさつ

- ↑○ドーモ アリガト ゴザイマス。どうもありがとうございます。
 <こう言うのはいい方で、ほとんど黙ったままお辞儀するだけではないか。>

3. ちなみに。

最近、両家の本人二人と両親とがホテルなどに集まって、結納を済ませることが多い。

II. 嫁をもらう家の人へのお祝いのあいさつ

1. 近所の人(↓)と嫁をもらう家の人(↑)とが、道で交わすあいさつ

- ↓○ア、コンニチワ。アノ コンド ムスコサンニ オヨメサン キマッタソ デ ゴザイマシテ オメデト ゴザイマス。あ、こんにちは。アノ今度息子さんにお嫁さんが決まったそうでございます。おめでとうございます。(上、あらたまり)
- ↑○エ。マ エン アッテ ヤット キマリマシタ ンデ。マ ホット シトリマス。エ ヒトガ ミツカリマシテ。ええ。まあ縁があって、やっと決まりましたので。まあほっとしております。いい人が見つかりましてね。(上品)
- ↓○ドチラノ カタ モラワレマス ンデス カ。ドナタノ ゴシヨ カイ

デ。オヨメサン オトシワ オイグツデス。 どちらの方をもらわれますですか。どなたのご紹介で。お嫁さんお歳はおいくつですか。(上品)

くあまり深入りしないようにするが、どちらの人か、誰の紹介か、年齢はいくつか、などは自然に話題になる。>

以上は男性話者の提供されたものである。女性話者からは、

↓○コノタビワ ゴリョーエンデ ネー。オメデトーサンドス。ケッコドシタ チー。この度はご良縁でね。おめでとうさまです。結構でしたねえ。(上品、ややあらたまり)

くオメデトーサンドスは、「お～さん」接辞による敬讓表現にドスがついていて、いかにも京都弁的。「ゴリョーエンガ オマトマリニナッテ～」ともいう。>

↓○オキマリヤシタソードス チー。お決まりになったそうですね。(上品)

↓○イチロサン コンドー オヨメサン デキハンノドス カー。

一郎さん今度お嫁さんができられるんですか。(中品)

↓○イヤ、キマラハッタンドス カー。イヤ、オメデトーサンドスー。あらあ、お決まりになったんですか。それはおめでとうございます。(中品)

く「イヤ」は否定の応答辞ではない。「あらまあ」に相当する感動詞である。京阪ではよく用いる。>

あるいは、こういうのもある。

↓○エートコカラ オモライヤスソードス チー。いい所からおもらいになるそうですねえ。(上品)

↑○へー、オーキニ。ケッコドシター。はい、ありがとうございます。安心しましたわ。(上品)

2. ちなみに。

※祝いを持参してのあいさつ

↓○ホンジツワ オヒガラモ ヨロシ ゴザイマシテ。コノタビワ オメデトー ゴザイマス。コレ サショーデ ゴザイマスガ オユワイノ シルシデ。本日はお日柄もよろしゅうございまして。このたびはおめでとうございませう。これは些少でございませうが、お祝いの印でございませう。(上品、あらたまり) <男→先方の親>

＜お祝いは大抵お金。ノシブクロに入れる。水引は金銀のものを用いる。ヒロブタ（目録を載せる家紋入りの塗りの盆）にのし袋を置き、フクサを掛けて差し出す。＞

↑○ソレワ オキズカイ イタダキマシテ アリガトー ゴザイマス。

それはお気づかいいただきましてありがとうございます。（上品、かしこまり）＜先方の親→男＞

＜受け取る方は予め用意してある所定の祝儀袋に、祝い金の約1割（以上）をオタメ（またはオウツリともいう）として入れて返す。＞

お盆を返す時の口上は、

↑○ゴテーネーニ アリガトー ゴザイマシタ。（上品）あるいは、

↑○ゴテーネーサンニー。オーキニ。 ご丁寧に。ありがとうございます。た。（上品）＜「ゴ～サン」形式があり、謝辞にオーキニがある。＞

Ⅲ. 嫁に出すことが決まった家の人へのお祝いのあいさつ

1. 近所の人（↓）と嫁に出す家の人（↑）との交わすあいさつ

↓○マー マー コソド オジョーサン オキマリニナツタソーデ オメデトー ゴザイマス。ドチラノ ホーイ。ドンナ オカタサンノ トコイ イカレルンデス。 まあまあ今度お嬢さんお決まりになったそうので、おめでとうございます。どちらの方へ。どんなお方様のところへ行かれるのです。（上品）

↑○イエー、モー カイジャノ ドーリョーデスノヤー。 いえ、もう会社の同僚ですのさ。（中品）＜男→男＞

女性のあいさつとしては、

↓○ドッチ オイキヤフノドス。 どちらへいらっしゃるんですか。（上品）

↑○へー。マー チョード チカクニ エンガ オマシテ。 はい。まあちょうど近くに縁がありましてね。（上品）

↓○ア、ソードス。ソラ ゴキンジョデ ヨロシー ナー。 ああ、そうですね。それはご近所ですよろしいですねえ。（上品）

あるいはまた、こういうのもある。

↓○イー トコ オイキヤソードス ナー。 いいお家へいらっしゃるそうですねえ。（上品）＜たとえ分からなくてもお愛想でこう言うこ

ともある。>

2. ちなみに。

※祝いを持参して交わされるあいさつ

事前に電話などで時刻がわかっているから、来られたら、「マーマー ドーゾ オクエ」といざなって、奥へ上がってもらう。玄関先でいただくわけにいかない。上がってもらって、お茶にめでたいお菓子を添えて出す。そこで交わされるあいさつは、嫁をもらう家の人へのあいさつと大筋で同じである。

IV. 結婚式当日のあいさつ

1. 出席者(↓)と新郎の父親(↑)とが交わすあいさつ

↓○オメデトーサン。コソニチワ ケッコーニ ゴシヨーパーン イタダキマシテ。アリガトー ゴザイマス。 おめでとうさま。本日は、結構なお相伴にあずかりまして。ありがとうございます。(上品)

↑○オイソガシーノニ アリガトー ゴザイマス。

<結婚式に近所の人をよぶことは、よほど親しい人でない限りほとんどない。仮に出席したとしても、親戚でないものは、披露宴だけだから、あいさつを交わす機会はほとんどなく、会場入り口での送迎の時に、ちょっと言うくらいである。>

2. 出席者と新婦の父親とが交わすあいさつ

上と全く同じ。

3. ちなみに。

(1)式の後、嫁ぎ先のお仏壇にまずお参りする習わしは、今でも続いている。

(2)以前は、挙式後に、町内のおもだった人をよんで、改めて「オチヨーナイノカオツナギ(お町内の顔つなぎ)」と称して、宴を設けた。今はそれはほとんどしなくなった。

V. 結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつに回る時のあいさつ

1. 姑(↓)と近所の人(↑)とが交わすあいさつ

↓○コレ コソド キマシタ ウチノ ヨメデス。ドーゾ ヨロシユー。
これ今度来ましたうちの嫁です。どうぞよろしく。(あらたまり)

↑○イヤー、キレーナ ヒトガ キヤハリマシタ ナー。イヤー マー
ヨー キテ クレハリマシター。 あらまあ、きれいな人が来られ
ましたねえ。ほんとによく来てくださいましたね。(中品)

あるいは、

↓○コソド ヨメニ マイリマシタ ハナコデ ゴザイマス。フツツカナ
モノデスガ ドーゾ マー コンゴトモ ヨロシユー オネガイ
イタシマス。マタ コレカラ ドーゾ スエナガ ヨロシユ オネガ
イ イタシマス。 今度嫁に参りました花子でございます。ふつつ
かな者ですが、どうぞまあ今後ともよろしくお願いいたします。また
これからどうぞ末永くよろしくお願いいたします。(上品、改まり)

↑○エー オヨメサン モラワレマシタ ナー。ヨロシユー ドーゾ タ
アンマッセ。 いいお嫁さんをもらわれましたねえ。よろしくどう
ぞ頼みますよ。(中品)

2. ちなみに。

姑も嫁も正装していく。紅白の饅頭の箱に嫁の名を書いて、マンジュ
ボンに載せ、ラクサを掛けて持参する。

VI. 嫁を迎えた家の人へのお祝いのあいさつ

1. 近所の50歳代の女性(↓)と、10日ほど前に長男に嫁を迎えた家
の父親(↑)とが交わすあいさつ

↓○コノタビワ オメデトーサンドス。ケッコーナ オヨメサンガ ネー。
オイデヤシタ ナー。ニギヤカン ナッテ ヨロシ オス ナー。

この度はおめでとうさまです。結構なお嫁さんがね。いらっしゃい
ましたねえ。にぎやかになってよろしいですねえ。(上品)

↑○へー。オーキニー。 はい。ありがとうございます。(中品)

あるいは、

↓○モ ゴアンシンデス ナー。イー オヨメサン キテ クレハッテ
ケッコデス ナー。ソラ モー シトアンシンデス ナー。

もうご安心ですねえ。いいお嫁さんが来てくれて、結構ですねえ。そ

りゃもう一安心ですねえ。(中品、親しみ)

↑○ヘー。オカゲサマデ。エーノガ アタリマシテ。エソ アッテー ナニ シマシタノデ。 はい。おかげさまで。いい嫁が当たりましてね。縁があって結婚しましたので。(上品、親しみ)

Ⅶ. 結婚式後の仲人へのあいさつ

1. 挙式後、新郎新婦や両親(↓)が仲人へお礼に行って、仲人(↑)と交わすあいさつ

↓○コソタビワ モー オイソガシーノニ イロイロト オセワニナリマシテ。マ ブジニ トドコーリナク スミマシテ アリガトー ゴザイマス。 この度はもうお忙しいのにいろいろと御世話になりました。まあ無事に滞りなくすみましてありがとうございます。(改まり)

↑○マ メデトー オシキ スンデ ケッコドシタ。マー コレカラ マー ドニゾ ナカヨー クラシトクレマス。 まあめでたくお式がすんで結構でした。まあこれからまあどうぞ仲良く暮らしてください。(上品)

2. ちなみに。

挙式後、仲人へのお礼には、お金でなく品物(たとえば反物や白生地など)でする。

これより先、結納の時に、結納の1割が新婦の家からオタメとして出され、これが一旦新郎の家に返った後、仲人へのお礼となる。仲人は挙式以前に新郎と新婦にお祝いをする。

Ⅷ. 嫁のはじめての里帰りのあいさつ

1. 嫁(↓)が里帰りの時に、嫁ぎ先の親(↑)と交わすあいさつ

↓○チョト シバラク イカシテ モライマス。デワ イッテ キマス。 ちょっとしばらく行かせていただきます。では行ってきます。

↑○マー ソナ アノ イッテ ヨー サトノ オカーサンニ チャント アイサツ シトイデ ヤ。ヨロシユー ユーテ クダサイ ヨ。 まあ、ではアノ行って、よく里のお母さんにちゃんと挨拶しておいで

ね。よろしく言ってくださいよ。(中品)

あるいはまた、

↓○チョト イッテキマス。 ちよっと行ってきます。

<昔は「イッテサンジマス」をよく言った。>

↑○イットイデヤス。オハヨー オカエリ。キー ツケテ。 行っていらっしやい。お早くお帰りなさい。気をつけてね。(上品)

2. ちなみに。

(1)里帰りは、旅行から帰って数日してする。帰ったら、まずご先祖のお仏壇にごあいさつする。(挙式当日、家を出る時にも、必ずお仏壇にごあいさつして出る。)

(2)嫁が里帰りをした後、2~3日たって、婿が迎えに行く。嫁の里では婿に御馳走をしてもてなす。その時の里の親のことばは、

○マー シトツ ヨロシユ オネガイシマス。コノ ナニモ ワカラ
ラン ムスメヤケドモ ヒトツ ヨロシユ オネガイシマス。

まあひとつよろしくお願ひします。この何も分からない娘ですけれども、ひとつよろしくお願ひします。(改まり)

○おわりに

今回ご協力下さった3氏には、たいへんご親切にいただき、感謝に堪えない。心からお礼を申しあげる。

冒頭でも触れたように、広い京都市のあいさつことばを、東部の3人で代表させることは、厳密にはできないことである。物の名などと違って、あいさつことばともなると、同じ区内でさえ、人により、家により、町により、いろいろ違った言い方になると考えられるから、本来なら、せめて20人ほどは調査したいところである。が、残念ながらその思いを満足させることができなかった。

京ことばを生活語として詳しく調査してこられた寺島浩子氏の「京ことばにおける「あいさつ表現」」(宮地裕編「論集 日本語研究(1)現代編」明治書院 所収)には、教えられることが多いが、今回の結婚に関するあいさつことばの記述は見当たらない。

ここに、蛇足ながら、結婚に至る以前の、縁談の段階での会話を参考までに掲出しよう。これは、西京区大原野灰方町の、知り合いの老年男子二人が

偶然出会って、出会いのあいさつからやがて縁談になり、そして別れていくという設定での、一連の会話である。方言話者は、小野正義氏ならびに上田吉雄氏。昭和52年2月採録。

A. コソニチワ。

今日は。

B. エー、コンニチワ。

はい、今日は。

A. エロ メズラシ 下コデ。

たいへん珍しい所でお会いしましたね。

B. ソードス ナー。シバラク オアイ シマヘン ナー。

そうですねえ。しばらく お会いしません ねえ。

A. ドナイ シテハル。

どうしておいでで。

B. へー。オカゲサンデ マー ドーニカ ミナ スゴシテマフノンデ。

はい。おかげさまで まあ どうか みな すごしていますので。

A. ソラ ケッコドス。(B. へー。) キョニワ ホテ ドチラノ ホニ。

それは結構です。 はい。今日は そして どちらの方へ。

B. チョット ネー。(A. エー。) エンダンノ コトデ オーシオチョー

ちょっと ね。 ええ。 縁談の ことで 小塩町

ノ ホエ イッペン イッテ コカシラント オモテ。

の 方へ 一度 行ってこようかしらんと思つて。

A. ハーハー。ソーデス カ。

はあはあ。そうですか。

B. ヘー。サー、オウチ オモイダシタガ オウチノ ムスコサン モ イ
はい。さあ、お宅 思い出したが、お宅の 息子さん もう い

クツアライ ナツテハリマスネヤ ナ。
くつぐらいになっておられますので？

A. ハハー。ウチノス カー。モー アンタ、モー ヒチエス ナー。ニ
ははあ。うちのですか。 もう あんた、もう 七です ねえ。二

ジュヒチエス ナー。
十七です ねえ。

B. ホー。ソラモー ナンドフ ナー。チョード モー アンタ、ボツボツ
ほう。それはもうなんです ね。 ちょうど もう あんた、ぼつぼつ

エンダンバナシモ ネー。ハジマル コロオス ワー。
縁談話も ねえ。 始まる 頃です よね。

ヤ、ヂツワ ネー。(A. ヘー。) ワシモ アンター、シトクミ タノ
いや、実はねえ。 はい。 私も あんた、一組 頼ま

マレテー アノー アイテカタノ ホノ ムスメサンヤケレドモ (A.
れて あのう 相手方の 方の 娘さんだけけれども

エー。) ナカナカ オウチモ シツカリ シタ オウチヤシ、デ、ホ
ええ。 なかなか お家も しっかり した お家だし、で、

ニンサンモ ネー。ヂツワ アノー エー ムスメサンデ モ ガッ
本人さんも ねえ。 実は あの いい 娘さんで もう 学

コモ シコンデ アルシ エー コタチガ イヤハルネヤガ イッペ
校も 教育してあるし、いい 子達が おいでなんだが、一度

ソ チョー ド トシゴロ ト シタラ コトシ アンタ、ハタチニ ナッ
ちようど 歳頃と したら 今年 あんた、二十歳に なっ

テハルネ ガー
てるんだけれど

A. アー、ソース カ。
ああ、そうですか。

B. マー アイショノ コトモ アルケレドモー (A. エーエー。) チョ
まあ 相性の ことも あるけれども、 ええええ。 ちょ

ード オウチー エー トコデ デオタンデー コンナ ハナシオ タ
うど お宅に いいところで 出会ったので、こんな 話を

ンネンヤガ ンー シトツ マタ オウチモ カエラレタラ シトツ
尋ねるんだけど、ンー、ひとつまた あんたも 帰られたら ひとつ

ウチゴロ ソーダン シトイテ モラッテ ワタシ マタ イッペン
うちうち 相談 しておいてもらって、私 また 一度

オタズネニ アガリマスケード シトツー チョード イマ エー キ
お尋ねに 参上しますけれど、ひとつ ちようど 今 いい

カイニ オアイシタンデ アノー イズレ マタ デナオシテ ヨヘテ
機会に お会いしたので あのう いずれ また 出直して 寄せて

モライマスケレドモ ヨロシユ マタ タノソマッサ。
いただきますけれども、よろしくまたお願いいたしますよね。

A. イチー。オーキニ アリガトー。モー ネー。コレアー コレダケワ
いやあ。ありがとうございます。 もう ねえ。これは これだけは

ネー。モ ヤッバリ ミナサンノ オセワニ ナラナンドラ デキヒ
ねえ。もうやはり みなさんのお世話に ならなかったらできな

ン コトナンデ マ ウチラ トッテモ ソナ ソノ ネー、イー下コ
い ことなので、まあ私方など とてもそんな その ねえ、いい所

カラ キテ イタダク イーヒト キテ イタダク チュヨナ ナカヤ
から 来て いただく いい人に 来て いただくというような、なか

レヤ アリマセマネー。マ トニカク ドナタデモ モー キテ クレ
では ありませんのです。まあとにかくどなたでも もう 来て くだ

ハル ヒトヤッタラ ケッコダスデド ネー。
さる 人だったら 結構ですけど ねえ。

B. イヤイヤー。ソラー ネー。ヤッパシ オウチラノー アノー オヨメ
いやいや。 そりゃ ねえ。やはり お宅なんかの あのう、お嫁

サンワー ヤッパシ カナリナ ネー。オウチカラー モーテ モラワ
さんは やはり かなりな ねえ。お家から もらってもらわ

ナンダラ . . .
なかったら . . .

ソラー アノ チョード エー トコデ オアイシテ ケッコヤッタ
そりゃ あの ちょうど いい所で お会いして 結構でした

ガー イズレ デナオシテ マタ オジャマ サシテ モライマスンデ
が、 いずれ 出直して また お邪魔 させていただけますので

A. エー。オーキニ。
ええ。ありがとうございます。

B. キョーワ マー コンナ トチュノ コトヤシ ミチバタノ コトヤシ
今日は まあ こんな 途中の ことだし 道端の ことだし

マタ オツテ アノー エー ヒー ミテ オジャマサシテ モライ
また 追って あのう、いい 日を見て お邪魔させて いただ

マフノンデ。

きますので。

A. アリガト ゴザイマス。マー トツゼン アイマシテ ナー。ケッコナ
ありがとうございます。まあ 突然 会いまして ねえ。結構な

オハナシ キカシテ イタダキマシテ。(B. イエー イエ。)マー
お話 聞かして いただきまして。 いえ いえ。 まあ

ナニカト ヨロシー ネー。マタ オネガイ イタシマス。

何かと よろしく ねえ。また お願い いたします。

B. ヘーヘー。シナ マー アノー ドーゾ ミナサンニ ヨロシユー。シ
はいはい。じゃ まあ あのう、どうぞ みなさんに よろしく。

ナ シツレー イタシマスケレド。

じゃ 失礼いたしますけれども。

A. ハー。アリガトー ゴザイマス。オーキニ。

はああ。ありがとうございます。どうもどうも。

1990, 12, 2 (大阪教育大学)